

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第46回部会）会議録

日時：令和5年11月9日（木）午後7時～午後8時25分
場所：東淀川区役所出張所3階多目的室

【議事】

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 議題
 - (1) アクションプランの検討状況（各地域からのご報告）
 - ・豊新地域より
 - ・新庄地域より
 - ・啓発地域より
 - ・淡路地域より
 - (2) その他
- 4 その他
- 5 閉会

《配付資料》

- ・議事次第
- ・第45回議事録等
- ・地域からの報告資料
- ・その他

1. 開会

2. 部会長あいさつ

- ・今年は、地域のイベントが目白押しで、どのイベントにも多くの人に参加していた。淡路地域では、商店街（東淡路商店街・淡路本町商店街）でハロウィンイベントも開催された。また、大阪市では9月に「令和6年度 市政運営の基本方針」を発表し、“地域における多様な活動主体が協働し、行政とも協働して「公共」を担い、活力ある地域社会を実現することを目指す”という内容が盛り込まれている。我々も各地域が連携し、区役所等とも連携しながら、地域福祉計画の改定作業と合わせてしっかりと進めていきたい。引き続き、皆様のご協力をお願いする。

3. 議題

(1) アクションプランの検討状況（各地域からのご報告）

（事務局）

- ・本日と次回の2回に分けて、アクションプランの検討状況について、各地域から報告していただき、意見交換の場としたい。今日は豊新地域、新庄地域、啓発地域、淡路地域の4地域にご報告いただく。

【豊新地域】

（豊新地域）

- ・豊新地域は、東淀川区内で一番初めにアクションプランを策定した地域である。当時はコロナもなく、たくさんの人に参加いただき1年がかりで意見交換をしながら、豊新版として冊子にまとめた。
- ・策定から5年が経過し、見直し作業をしてみて、地域の皆さんが5年の間、作った冊子をあまり見ていなかったことが分かった。

- ・お手元の資料（「豊新地域保健福祉計画 見直しワークショップ」）のとおり、まず、計画策定後の5年間で何が起こったのかを整理した。コロナで経済や地域活動が停滞し、成人年齢が18歳に引き下げられたり、レジ袋が有料化されたりした。地域では、グラフのように高齢化率や単身世帯が増えた。
- ・コロナ禍ではあったが、豊新地域では、その間何もしなかったのではなく、いち早く地域活動を再開した。感染症対策を行いつつ、例えば避難所開設訓練での間仕切りや、ふれあい喫茶などで個包装のものを提供したりする工夫をした。
- ・豊新地域には海拔2mで3階位まで水に浸かるエリアもある。「イオンスタイル東淀川」ができたので、イオンの駐車場に避難する訓練や、イオン・東淀川区・豊新地域の3社で「包括連携協定」を締結した。
- ・コロナ以降、不登校になる子どもが全国的に増えたので、地域が主体的に行う子どもの居場所づくりを進めた。豊新地域は集団登校ではないので、朝ごはんを食べずに遅れてくる子どもが多いため、NPO法人やフードバンクの協力を得て、金曜日の朝に子ども食堂を始めた。菓子パンを食べて登校したり、学校の先生が迎えに来たりして、朝食を食べて登校できるようになってきた。一方で、地域ではケアしたいものの、人材不足という課題があった。そこで、100歳体操の参加者の皆さんに少し早めに来てもらい、子ども食堂を手伝ってもらうことにした。大阪経済大学の学生さんなども手伝ってくれている。その結果、世代間交流や、高齢者のやりがい・生きがいがいづくりにもつながったと思う。
- ・コロナ禍で、以前のようなおまつりやイベントがしづらかったが、“おまつり気分”を感じてもらうため、あえて作る場所を見せながら、できあがったお弁当をテイクアウトで提供した。用意した550食では足りないほどの人気だった。
- ・創立50周年を迎える小学校で、表門から裏門までの“桜の通り抜け”を企画した。普段なかなか敷地内に入ることができない卒業生や地域の方々、もうすぐ小学校に入学する卒園児など、桜と一緒に写真を撮ったり、昔を懐かしむ機会になった。来年は、お茶席を設けたいと考えている。地域の緑である「豊新の森」をみんなで育てる地域活動を行っている。
- ・計画の4項目のテーマ（高齢者・障がい者を地域で育てる、安心して暮らせるまちづくり、子どもを地域で育てる、他の地域に自慢できる魅力的なまちづくり）毎にワークショップを行った。区役所や区社協の方、地域外でも興味がある人にも参加してもらった。コロナ禍で参加者は以前よりも少なめだったが、模造紙にアイデアや意見を書いた付せんを貼ったりして、いい話し合いができたと思う。
- ・今後、例えば、防災訓練は平日と休日、昼間と夜間では状況が異なるので、異なる想定での訓練をやっていきたいと考えている。
- ・高齢者や障がい者などの福祉関係については、専門家との連携が不可欠だが、どこのだれに相談すればいいのか分からないことが多いことが課題の1つ。また、お年寄りが外に出てきやすくするための地域ぐるみの取り組みも必要。
- ・地域としては、イベントに子ども自身が企画や運営に関わってもらえると良いが、学校の先生方の負担にならないような形で実施する工夫が必要。キッズニアのような体験型の企画もやっていきたい。
- ・地域には外国人や単身者も住んでいる。情報発信について、QRコードやネットを活用していきたい。
- ・（見直し作業のワークショップを）やってみて感じたことは、他の地域でもぜひやるべきだと思うのは、みんなで意見交換をする場をつくる、ということ。地域で活動されている方は、普段から会議への出席や、イベントの企画や準備、当日の実施運営などで忙しく、それぞれ一番大切にしていることは違うと思

うが、イベントの内容に関わらず、みんなで意見交換をすることで、地域が目指す目標について目線を合わせることができると思う。

- ・それぞれがバラバラな課題に見えても、子育てと高齢者、防災など、くっつけてみるとできることがある。朝の子ども食堂がその例で、（食事を提供した）子どもからお金をとるべきだという意見もあったが、（子どもの家庭でトラブルになっても困るので）無料にしたかった。実施にはお金がかかるので、パンは企業から分けてもらい、牛乳は別の補助金を充てるなど、他で賄う仕組みをとった。次は子ども達が大人向けの食堂をやってみよう、というアイデアも出ている。

（事務局）

- ・資料（「豊新地域保健福祉計画 見直しワークショップ」）の最後の部分（ワークショップでとりまとめた具体的な対応策を短期・中期・長期に分けて整理した「今後の取り組み①②」）は、まさに豊新地域の次期アクションプランになっていると思う。

（質疑応答）

（部会員）

- ・今、学校は「働き方改革」で、先生や職員を授業以外に動員しづらくなってきている。私の地域でも、地域のイベントや行事に出てきてくれるのは校長先生だけだったりする。

（豊新地域）

- ・ちょうど10月に学校で創立50周年のイベントをしたかったが、学校でのイベント開催はとても難しくなってきた。

（久教授）

- ・最近では、教員や公務員も、それぞれ自分の地域の住民として、住んでいる地域の活動の方に参加すべきで、担当業務エリアのイベントや行事には出てこなくてもよい、という考え方も出てきた。

（豊新地域）

- ・私も、今日は有休を取って資料をまとめ、会議に出ている。逆に職場では、「有休なのになぜ地域の行事に出ていくのか？」と言われることもある。学校との関係では、イベントに子ども達（とその保護者）だけで参加できる形を模索している。

【新庄地域】

（新庄地域）

- ・新庄地域では、先ほどの豊新地域の1年後にアクションプランを作ったが、この5年間、まったく進んでいない。なんとかしないといけないとは思っているが、区社協の範囲で、地活協はその支援だとも考えている。豊新地域をお手本にして、これから地元で進めていきやすくなりそうだ。
- ・新庄地域は慎重派の人が多く、コロナ以降、このあたりでは一番最後に活動を再開した。
- ・新庄地域も一部がイオンに隣接しているため、近所のマンション住民はイオンに避難させてもらうのが現実的だと思うので、相談させてもらいたい。地域内では、2年後に15階建て2棟のマンションが建つ予定で、270世帯が増える見込みである。

- ・新庄地域は集団登校なので、8時20分までに登校し、あとは学校の中で遊んでいる。学校協議会の報告では、特に国語の勉強に力を入れていて、学力テストでは全国平均・市の平均を超えた。国語は学習の基礎なので、これから他の科目へも良い影響があるのではと期待している。
- ・朝食を食べていない子どもは一定数いると思われる。新庄地域では子ども食堂をやっていないので、まずは土曜日に駄菓子屋さんを開いて子どもを集めるところから始めた。駄菓子屋さんは子ども食堂よりもハードルが低いので始めやすく、300人弱の児童の約半分にあたる140数人がやってくる。
- ・地域のいきいき教室やはぐくみ、いきいきなどの場に、地元の中学校の吹奏楽部に演奏してもらう機会を作った。
- ・「障がい者福祉計画」を作成し、地活協でバックアップしている。小学校の「なかよし学級」のお母さん達どうして、OBが現役ママをフォローし、互いに助け合う仕組みができてきている。9月に「障がい者のための防災教室」を開催し、ざっくばらんにわいわい話しあう機会もあった。
- ・「防災リーダー研修」では、地震災害研究センター阿武山観測所（大阪府高槻市）の方に来てもらい、話をしてもらう予定。みんな防災には関心があるので、防災をテーマにすると来てくれる。小学校の中でテント泊をする防災訓練など、楽しいアウトドアのような感覚で、他のイベントと抱き合わせでやっている。豊新地区の報告にもあったが、単体でやらずに、色々繋げてやってみるのがよさそうだ。
- ・11月19日に地域の運動会を開催する。町会長への負担も大きいので、動員をかけずに子ども達が集まってくるようにしたい。
- ・地活協や地域で活動しているメンバーも、それぞれ5年経って高齢化している。連絡網から再構築しないといけない部分もある。

(質疑応答)

(部会員)

- ・駄菓子屋さんのイベントは、駄菓子を買ってきた経費と子ども達から受け取るお金は+-0か。

(新庄地域)

- ・駄菓子屋さんのイベントは子ども会の主催だが、140人分買ってきたと聞いている。その後、追加で経費が足りないという話も聞かないので、やりくりできているのではないかと思う。

(部会長)

- ・多岐にわたる活動について報告いただいたが、「地域保健福祉計画」を改定するタイミングで、地域保健福祉計画とアクションプランを網羅する内容になっているが、改めてまちづくりのアクションプランを見直すということは考えていないのか。

(新庄地域)

- ・(地域で行われている様々な活動を) 地域の人がどのように捉えるかということだと思う。例えば、地域に大きなマンションが建つとき、市営住宅の跡地が更地になったとき、“地域としてこうしていきたい”と示すこと、地域での同意形成のためにまちづくりのアクションプランをつくることは重要だと思う。

(部会長)

- ・西淡路地域でも、新大阪駅東口の会を11月末に開催する。まちの様相が変わっていくような国や市、区

の動きに対して、地域としてはどうしたいのかを示したいと思っている。

(久教授)

- ・「地域保健福祉計画」とまちづくり構想のアクションプランが同時期に作られたところでは、「なんでやねん」と言われるかもしれない。それぞれ別々に作れるのならそれはそれで良いが。

(事務局)

- ・区としても、それぞれ別々に2つの計画を作ってほしいとは考えておらず、総合的に内容が含まれているものが作れたら良いと考えている。

【啓発地域】

(事務局)

- ・まさに、啓発地域では、そのようにしたいと思っていて、今までやってきたワークショップでの意見をもとに、さらにアクションプランの見直しのためのワークショップをするのではなく、啓発地域のアクションプランを作っていこうということで今年2月に作成したのがお手元の資料（「啓発地域まちプラン たたき台」）である。
- ・啓発地域は、とても特殊な地域で、民間借家に住む一人暮らしの20代（5年未満居住）が一番多い人口ピラミッドで、外国人も多く住んでいる。一方で神社・仏閣が多く残っている。
- ・啓発地域が抱える課題は、日本全国で共通の課題も多いので、そんな課題を地域だけで解決することは難しい。いったん「課題の倉庫」に整理して、地域のありたい姿を考えたり、既に行われている地活協の事業を整理してみると、保健福祉計画とバリアフリーまちづくり構想に含まれていることもわかった。

(啓発地域)

- ・啓発地域は町会への加入がとても少なく、10%位。地域のイベントにも、若いファミリー層の参加が少なく、どうやって地域活動に入ってきてもらうかを工夫していきたい。例えば、案内をQRコードでコンビニや地域の掲示板に貼り、簡単に地域の活動が見られるようにしたい。広報紙にもQRコードでボランティア募集をする、地域のホームページで動画まではできなくてもスライドショー（個人の判別に配慮の上）で若い人たちに地域の活動内容を見せるなどができないか、といったことを考えている。
- ・子育てサロンには、他地域からの参加者も増えている。（加入率が少ない町会だけにこだわらず）地域外の人から見た地域の姿なども取り入れて、ゆるやかな進め方を工夫していきたい。

(事務局)

- ・資料は区役所で作った“たたき台”なので、これからプロであるコンサルタントの力を借りて、ブラッシュアップしていければと思う。

【淡路地域】

(淡路地域)

- ・コロナ禍もあり、まちの活動の一体感が薄くなってしまい、アクションプランの策定に向けた議論を行う体制づくりに苦労している。
- ・人と会うことが避けられた結果、地域の活動が細分化して活動しているように感じる。地域のなかでバラ

バラな“端切れ”のようになってしまっている活動を、つぎはぎでもいいから“まちという一枚の布”にしていければよい。

- ・淡路地域では、他の地域のように一同に会してワークショップをするよりも、現在活動している人それぞれに個別ヒアリングやグループインタビューをした方がいいのではないか。

(質疑応答)

(部会長)

- ・まちの中の様々な活動をまとめていく「プロデューサー」的な人がいない、ということか。

(淡路地域)

- ・現在のイベント活動を積み上げていっても、“まち全体の取り組み”にはならない気がしている。みんながやっている活動をまずいったん表に出して、パッチワークのようにつないでいけると良い。

(部会員)

- ・先ほどの豊新地域では、もし誰かが何かをしようと思ったら、どのようにまちの中で進んでいくのか。

(豊新地域)

- ・月1回の役員会や個別の会議でまず話題にする。私はどちらかと言えばアクセルを踏み気味（の会長）だが、今のところみんながついてきてくれている。

(淡路地域)

- ・地域によっては、例えば子ども食堂とか、同じようなことをそれぞれやりたい人がいて、やりたい人も、聞いてない、という人もいるのでは。

(豊新地域)

- ・子ども食堂は、やりたいという団体が複数存在している。

(淡路地域)

- ・まちのために活動していても、どこかピントがズレていた場合には、“まち”にははまってくれず、ネガティブに受け止められることもあると思う。そういう場合でも、したたかに“まちの成果”としてしまっ
てよいものか。

(久教授)

- ・いろいろな事例を見たり、一緒にやってきたりしたが、メディアなどで取り上げられている“目立つ人たち”があれもこれもやっているように見えるが、実際にはメディアで取り上げられない“支えている人たち”が必ず存在している。また、一部の人だけでやっている活動は長続きしない。継続性のためにも、みんなで作ろうよ、いいことやってるから仲間に入れてよ、地域に紹介させてよ、といった柔らかな声のかけ方を工夫する必要があるかもしれない。

(淡路地域)

- ・確かに一声かけてもらっていただければ印象も違う。例えば飲食店が1つでただで住民の顔が見えるようになり、まちの変化を感じることができたので、一個人の力と会議体の力を考えてしまった。

(事務局)

- ・地域は一つにまとまらなければならないものか？ゆるやかなつながりでもよいのではないか。

(部会員)

- ・私なら、(何かやりたい人が現れたら)「とりあえず地活協の〇〇部会に入っといて」と声をかけて繋げておく。会議体の頂点に居なくてもよくて、末端でもいいから繋がっている接点だけあれば。まちという組織のなかの一員であればいい、そのくらいのゆるさでいいのではないかな。

(部会員)

- ・まちや地域では、「スペシャリスト」だけでは調和しないと思う。全体を見て、まとめていく「ゼネラリスト」も必要だと思う。

(久教授)

- ・淡路地域でも「コーディネーター」がいれば…。1人だとしんどいので、2～3人がまち全体を見て、ブレーキやアクセルを踏んで、やりたい人には任せて、うまくつなげていける人がいると良い。

(淡路地域)

- ・先ほどのもちつきで言えば、他の地域のもちつきもやってもらえば、それも輪になり、つながっていくかもしれない。

(部会員)

- ・豊新地域では、初版の「地域保健福祉計画」をベースに、改訂版は作成しないのか。また、「総括」はしないのか。

(豊新地域)

- ・資料の「策定後5年 見直しワークショップ報告書」では、初版の策定時から進んだ点を踏まえ、今後の取り組みを短期・中期・長期で示すことができ、プラスαも出せたので、初版と別物だとは考えていない。

(部会員)

- ・豊新地域のワークショップや見直し作業には、福祉コーディネーターも参加したのか。

(豊新地域)

- ・ワークショップには参加されているが、全体としては関わっていない。むしろ、地域が主体で進めた。

(事務局)

- ・他の4地域(西淡路、東淡路・柴島、下新庄、菅原)にも次回、活動報告をお願いしたい。

4. その他

- ・次回の部会は、1月11日(木)午後7時から、東淀川区役所出張所3階多目的室で開催予定。

5. 閉会

以上